



大森六中だより

令和7年 12月号
大田区立大森第六中学校
統括校長 菅野 哲郎
TEL 3726-7155

人権宣言の重み

「人権週間」は、1948年12月10日に国連で「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、日本では毎年12月4日から10日までの1週間と定められています。

人権とは、人が人間らしく、自由に、そして幸福に生きるために、生まれながらにして誰もが持っている基本的な権利のことです。人種、性別、国籍などに関わらず、すべての人に平等に与えられ、誰からも侵害されないもので、生命・身体の安全、意見の自由、教育を受ける権利など、幸せな生活を送るための様々な権利を含みます。

そして、人権と平和は相互に深く関連しています。人権と平和は互いの基盤となります。平和は人権尊重の前提であり、人権が尊重される社会では争いが起こりにくくなります。逆に、人権が侵害される状況では、争いや戦争が発生し、生命や尊厳が脅かされます。

本校は人権週間に先んじて11月21日(金)に平和記念講演会を実施しました。

本校では、ユネスコスクールに加盟した2011年に校庭改修工事を実施した際、太平洋戦争当時の防空壕跡が発見されました。そして地域の方々の要望を受けた大田区がその保存工事を行い、3年後に工事は終了し、2014年11月12日に記念式典を行い、広島市長から寄贈された「被爆アオギリ2世」を植樹しました。以来11月12日を「六中平和の日」と定めて、毎年その日の前後に平和を考える機会をもってきました。また、2015年に当時2年生の門岡駿さん作詞、音楽科の殿塚利江先生作曲の「六中平和の歌」が作られ、歌い継がれて



六中だよりは HP からも
ご覧いただけます。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

います。

今年度はペウレ・ウタリの会から谷口滋さんを講師に招いてアイヌの文化と歴史を学び、差別について考えました。

アイヌとはアイヌ語で「人間」という意味で、アイヌの神は「カムイ」です。

カムイとは、動物や植物、火や水、鍋などの生活用具、人間が生きていく上で役にたつものすべてです。また、人間の力の及ばないものと考えます。そして神々もまた人間を必要としていて、カムイとアイヌは対等な関係であり、神々の世界では人間と同じ暮らしをしていると考えます。さらに疫病やアイヌに危害を加えるものも「ウェンカムイ」と言ってカムイの一つと考えます。

人間は自然世界の一部として、そこに住まわせてもらっているので、人間の世界での役割を果たしたカムイは仲間の待っている神々の世界に帰ることになります。そこで、カムイが再びやってくることを願い、カムイの世界に送り帰す儀礼を行います。

こうした信仰から、アイヌの人々はすべてのものを大切に扱います。まさにSDGsの精神が受け継がれています。

しかし、残念ながら少数民族のアイヌの人々は、差別と迫害に長く苦しんでいます。2019年に「何人も、アイヌの人々に対して、アイヌであることを理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない」と記されたアイヌ施策推進法が制定されました。この法律の重みを生徒はしっかりと胸に刻みました。

持続可能な社会の担い手づくり

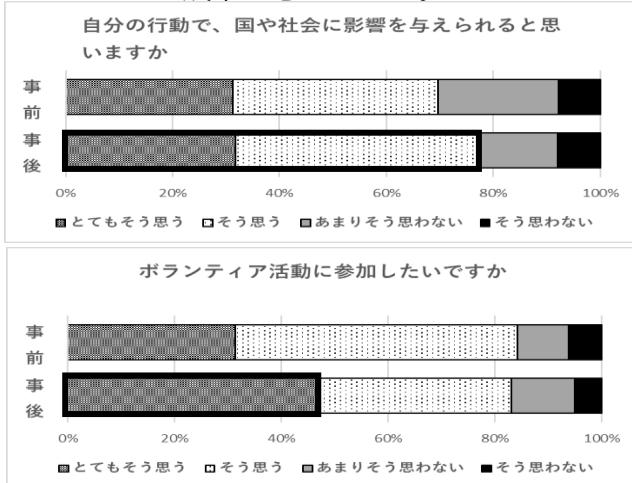
大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

六中版 おおたの未来づくり

「おおたの未来づくり」の主軸である環境教育、防災教育、平和教育について、今年度の主要なプログラムをすべて終了したところでルーブリック評価第2回を実施しました。

「自分の行動で、国や社会に影響を与えられると思いますか」という問いでは、肯定意見が増加しました。社会の一員として、自分にできることがあると思えるようになったことに成果を感じました。しかし、国や社会に影響を与えられると思っている生徒が増加したとは言え、未だに80%を下回る現状であることに課題を感じます。今後は「地域とつながる学習」を目指してプログラムの充実を図りますので、今後とも六中の教育活動充実のため御協力をお願い致します。

「ボランティア活動に参加したいですか」では肯定意見の割合はあまり変化しませんでしたが、「とてもそう思う」の割合が増加し、半数近くを占める結果となりました。募金や寄付などの間接的な支援だけではなく、ボランティアなどの直接的な働きかけに対する意欲が向上していることに成果を感じました。



今月の行事報告

連合学芸会

11月上旬に、大田区立中学校連合学芸会が開催されました。今年度、本校は音楽の部・英語の部・演劇の部に参加しました。

音楽の部では、第3学年の有志生徒が参加し、「平和の歌」の合唱を行いました。また英語の部には第2学年の成川祐菜さん（2100学級）・伊藤永莉さん（2200学級）が参加しました。成川さんは”The Road to World Peace”、伊藤さんは”Toward an Era of Working Together”をテーマに、英語でスピーチを行いました。また、演劇の部では、演劇部の生徒が、文化祭でも好評を博した「秘密レストラン『ほうか』」を演じました。いずれの部においても、生徒たちの日頃の努力の成果を感じられ、充実の連合学芸会となりました。

平和記念講演会

11月21日（金）には、平和記念講演会が行われました。今年度は、公益財団法人アイヌ民族文化財団派遣アドバイザーであり、ペウレ・ウタリの会副会長を務められている谷口滋様をお招きし、

「アイヌの文化・人権問題～首都圏でのアイヌとの交流を通して～」をテーマにご講演をいただきました。

講演のなかでは、谷口さんがアイヌの方々との交流を通して知り得たアイヌ文化の特色や、首都圏に住まいを移されたアイヌの方々が直面した差別の体験についてご紹介いただきました。「多文化共生」とうたわれることの多い昨今ですが、異文化は国内外のいずれにも存在することを忘れず、それぞれを尊重できる人間として生徒たちが成長していくよう願います。